

活動報告

今年の夏、障がい者スポーツ支援部では様々なスポーツ大会で救護班・

障がい者スポーツ支援部

2023北海道アダプテッド陸上競技会 パラスポーツとの関わり



指定障がい者支援施設 やすらぎ園 内村 隆一郎

大会当日の8月20日は朝方から雨が降り続いておりましたが、開会式には雨が上がり蒸し暑い中、選手約100名、スタッフ80名にて開幕しました。また、今回はデフ陸上の日本代表選手もゲストとして参加していました。

この競技会は、旭川パラスポーツ協議会が主催となり「スポーツを通して、障がいのある方の社会参加と共生社会への実現」を目的に開催されています。競技はトラック・フィールド競技、リレーに分かれ、車椅子(電動も可)で障害物を交えながら30m走行するスラロームといった種目も含め、16種目で構成されていました。参加資格は障がいの有無は問わず、小学生以上というのも特徴となっています。

活動内容としては、医師1名、理学療法士3名でコンディショニングスタッフ・救護班として、医師の指示を中心にチームとして連携をとり、



熱中症への対応、テーピングやコンディショニングの対応といった活動をしました。経験豊富な医師や理学療法士の方々と一緒に活動し、アドバイスをたくさん貰う事ができ貴重な経験となりました。

最後に、自分がパラスポーツに関わっている目的があります。一つは自分の勤めている施設の利用者が、スポーツを通して社会に参加するきっかけになれば、という点。もう一つは、旭川の未来会議に参加する機会を得た事もあり、パラスポーツを旭川の特徴にしていきたいためです。今後もパラスポーツに関わっていく仕事を増やしていきたいと思っています。

北海道障がい者陸上競技大会

俱知安厚生病院 檜館 強拓



9月3日に釧路市民陸上競技場で北海道障がい者陸上競技大会が行われました。今回は救護テントの中で理学療法士3名、見学の学生1名、保健師が1名、救急救命士が1名で対応をしました。当日の最高気温は27℃、道東地方とは思えない気候の中で、テントの中と治療用ベッドや椅子なども高温になり、風通しを良くしたり、アイスパックを用意したり、起こりうる事態を想定しながら準備を進めてきました。昨年度



も理学療法士によるトレーナー活動を行ってきた経緯もあり、役員、選手の中でもその存在が認知されていることを実感しつつ、ブースの利用者は14名、そのうち熱中症対応は2名でした。競技前のコンディショニングとしてストレッチやテーピングあるいはエクイップメントの調整など、実に多岐に渡る内容でした。印象的だったのは選手の中には多種目に出場するケースもあれば、当日に競技種目を変更して初めて参加する(例:これまで100m走だったが、今回は200mに初めて挑戦するなど)ケースもあることです。競技のパフォーマンスアップも図りたいところではありますが、まずは安全にその競技を終えることにフォーカスしつつ対応をすることもありました。競技後の対応の際は選手の今後のケア方法やコンディショニングについて指導・アドバイスもさせていただきました。熱中症の対応では保健師・消防士のサポートとして活動しましたが、やはり消防士の対応の速さは目を見張るものがあり、我々理学療法士も評価や判断、対応の速さは重要だということを改めて考えさせられる1日でした。今回のような貴重な機会を経験させていただいたことに感謝しつつ報告とさせていただきます。

コンディショニングスタッフとしてサポートさせていただきました。その一部をご報告いたします。

第61回北海道障がい者スポーツ大会 車いすバスケットボール競技

旭川医科大学病院 才田 良幸



9月24日に釧路町で第61回北海道障がい者スポーツ大会車いすバスケットボール競技が開催されました。昨年の第60回大会に続き、今年も理学療法士ブースを設置し、理学療法士5名、保健師2名の計7名で大会中の救護およびケアを行いました。

大会は、道内3チームによる総当たり戦が行われました。今年は、計18名の選手が参加され、幸い大きな事故もなく終えることができました。

理学療法士ブースでは、計8名の選手に対してケア、コンディショニングを行いました。車いすバスケットボールは、選手間の接触が多いコンタクトスポーツであり、外傷、転倒が多く発生します。加えて、速く細かい車椅子スキルが必要であり、上肢、肩甲帯、体幹に慢性的なストレスがかかりやすい特徴があります。実際に、腰部や肩、肘の慢性痛を訴える選手が多く、理学療法士によるストレッチやテーピングだけでなく、座位姿勢や身体の使い方について相談・指導を行いました。選手のスポーツ障害予防、スキルアップのサポートが今後も必要であると実感しました。また、応援に来た方に対して車椅子スポーツの体験なども行い、車椅子スポーツの楽しさや難しさを体験してもらいました。

本大会を通じて、選手やスタッフ、地域の方へ、理学療法士の活動をアピールできたと思います。

